

メルケルさん おはよう

2021/06/23



オペラが大好きなみなさま こんにちは。お元気のことと存じます。また、お元気じゃないと困ります。明日のNHKの講座、あります。ヴェルディの《シチリアの晩鐘》の第2回です。第2回といっても、先回はただ、資料をお配りして、前置きの説明だけで終わりました。明日は、オペラの序曲から始めます。

このオペラはあまり有名ではありませんが、資料の概説でのべましたように「ヴェルディの第19番目のオペラで、《リゴレット》(1851)と《イル・トロヴァトーレ》(1853)と《椿姫》(1853)につづくものです。その意味では、ヴェルディのもっとも最盛期の傑作の一つといえます。初演は、万博が開かれた1855年のパリのオペラ座でした」という注目すべき話題豊富な作品です。楽しみにお出かけください。

昨日、ドイツのミュンヘンでご活躍中のピアニスト伊藤香紀（かな）さまからご機嫌伺いのメールをいただきました。嬉しかったです。

「こちらミュンヘンでは、屋外でのマスク着用義務が解除され、医療用マスクから少しだけ解放されてだいぶ過ごしやすくなりました。ワクチン接種は進んでいるものの、接種日予約は争奪戦で、私のワクチン接種日予約に

はまだまだ時間がかかりそうです」
それで、早速、返事を出しました。

「ミュンヘンはマスク着用が解除されて素晴らしいですね。日本はまだマスク着用が義務化されていて、ワクチン接種も、まだ日本人全体に届かず、日々の感染者数もなかなか減りません。日本では、来月からいよいよオリンピックが始まります。『このコロナ禍が納まらないのにオリンピックはありえない』というのが感染症の専門家や一般の国民感情です」

東ドイツ出身のメルケルさんは、長年に渡って市民として幽閉された苦しみをよく知っています。自由の素晴らしさが理解出来る政治家です。都市封鎖や自宅での自粛を命じるときに、メルケルさんの苦渋の決断は、世界のどの国の首相よりも深く重いものを感じます。日本の政治家も国民も、深い体験から生まれた自由と規律と尊敬と仲間の価値を知りません。日常の生活と人生がどんなものであるかを知りません。私はよく分かっています、親しい仲間とゴルフや家族との会食にあきくれています。(笑い) 楽しいです。むろん、マスク付きです」と返事をだしておきました。

苛酷な過去を持つメルケル首相と反対の立場に立つ今注目すべき指導者は台湾の蔡英文政権下の35歳の若き無任所閣僚のオードリー・タンです。メルケルさんが過去のおぞましい体験から現在の苦境を案じるように、未経験の若きオードリー・タンは同じ指導者の立場から現在の不安な状況を憂えているのです。どちらにも未来に対する責任感と想像力があります。これこそ荒海を乗り越える難民船の船長の心意気です。

今朝届いた香紀さんからの再度のメールには、「こちらは、屋外のマスク着用義務解除になり、街中はコロナのなかった世界に戻ったような錯覚を覚える程、皆、カフェでお食事&お話をマスクなしで楽しんでおります。私は怖くて、まだ外で食べられません。感染者数は、1日に数百人と減ってきてはおりますが、まだ油断はできません。また、屋内でピアノを弾くときは、医療用マスクを着用しないといけないので、その息苦しさから、マラソン選手が酸素の薄い所でトレーニング(私の場合、ダイエット)しているような気分になります。でも、なかなか痩せません。笑」とありました。

いつも楽天的でそれでいて慎重で想像力豊かな香紀さんです。香紀さんの日々のご活躍を祈っています。では、みなさまとは、明日、NHKでお会いしましょう。

都築正道